

2022年12月

No. 60

書道教室 薬院 一凜
sho-do ICHIRIN

繼續は力なり



一凜 月刊

月刊

一凜

夢は美一筆より
希望は高まがよ
夢も希望も捨てなければ
必ず近づいてくる
目的は高まがよ、そのための
一里塚ごと目標を定めよ
ううそのために時を
刻まさげよ



月刊一凜 No.60 〈2022年12月〉

《競書審査員》佐々木峯雲 《発行》書道教室 一凜 薬院 《制作》野口昌芳(NS)



書道教室 薬院 一凜
sho-do ICHIRIN

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F
TEL / 092-791-7251 FAX / 092-791-7786
<https://www.shodo-ichirin.com/>

山

深

雪

消

今

年10月末で43年間在籍した会社を辞めた。長く勤務したおかげで未消化の有給休暇もたっぷりあり、カミさんと旅行することにした。本当はハワイをはじめとした海外へ行きたかったのだがコロナ禍も終息したとはいはず、おまけに猛烈な円安が続いた。ネット情報によると、物価高が続く米国ではペットボトルの水が1000円もするそうで国内旅行に切り替えた。

行き先は島根県の出雲大社を選択した。以前、この欄でも書いたが伊勢神宮に参拝したことがあり、その続編のつもりだった。新幹線で広島市まで行き、レンタカーで出雲市入りした。スポーツ記者時代に全国各地を訪れたが、山陰地方は極端に縁が薄かつた。広島駅からレンタカーで中国地方を横切るような道中は海外へ行かずとも物珍しいものばかりだった。

まず、目についたのが赤褐色の屋根で、ほぼ統一された住宅街だった。

これは島根県の石見地方の特産品「石州瓦」が使われているためだった。高温で焼かれとにかく固いそうだ。真夏の日差し、台風、豪雪の重みに耐えるとのことだった。目的地の出雲大社に到着し、宿泊先は出雲大社正門の目の前に建つ竹野屋旅館。

この旅館は、シンガーソングライター竹内まりやさんの実家

75畳の日の丸

参拝もそそそに巨大日の丸ば

かり見る私に妻は「神聖な場所に来たのに、興味はそこ?」とあきれいで、これが最大の土産話になった。帰つてからも日の丸の話ばかりをしている。「地球の歩き方」のようなガイドブック的な旅行記になつたが、やはり一番気になつたのがお土産屋さんにある「お土産」のネーミングだ。

「島根か鳥取か分からぬけど、そ

こら辺に行きました」という名のチョコレートパイの詰め合わせだ。この月刊一凜を制作編集していただいているデザイナーの野口昌芳さんは鳥取県出身だった(?)。いつも野口さんに会うたびに「生まれは島根か鳥取か、どっちだった?」のジョークを挨拶がわりにしている。手に取りながら「地元の人たちもそう思つてゐるんだ」と思わず爆笑してしまつた。ところで、野口さん! 生まれは島根、鳥取だったかな? 鳥取ですね、そしたら辺?

年10月末で43年間在籍した会社を辞めた。長く勤務したおかげで未消化の有給休暇もたっぷりあり、カミさんと旅行することにした。本当はハワイをはじめとした海外へ行きたかったのだがコロナ禍も終息したとはいはず、おまけに猛烈な円安が続いた。ネット情報によると、物価高が続く米国ではペットボトルの水が1000円もするそうで国内旅行に切り替えた。

行き先は島根県の出雲大社を選択した。以前、この欄でも書いたが伊勢神宮に参拝したことがあり、その続編のつもりだった。新幹線で広島市まで行き、レンタカーで出雲市入りした。スポーツ記者時代に全国各地を訪れたが、山陰地方は極端に縁が薄かつた。広島駅からレンタカーで中国地方を横切るような道中は海外へ行かずとも物珍しいものばかりだった。

まず、目についたのが赤褐色の屋根で、ほぼ統一された住宅街だった。

これは島根県の石見地方の特産品「石州瓦」が使われているためだった。高温で焼かれとにかく固いそうだ。真夏の日差し、台風、豪雪の重みに耐えるとのことだった。目的地の出雲大社に到着し、宿泊先は出雲大社正門の目の前に建つ竹野屋旅館。

この旅館は、シンガーソングライター竹内まりやさんの実家

山深雪未消（虚堂録より）

「山深うして雪未だ消えず」

山の深いところにはまだ雪がまだ残つてゐる、ただそれだけのことなのです。ところが人生を深く考え、真理をもとめようとしている人たちは、なんでもないこと、平凡なことに感動し涙を流しています。禅の言葉に当たり前のことが多いのは、目の前のごく平凡な風物に宇宙の大真理が宿つてゐるからなのです。（中略）

私は四月の末ごろから、毎朝裏の山に登つてワラビを摘みます。ウグイスの声を聞きながら遠くの山々を眺める気分はなんとも言えません。残つてゐる雪を見て、今年も都会の人たちに水が行き渡ることを思つて喜んでいます。

日本書道協会「名言名句辞典」より



山深雪未消（虚堂録より）

桜の開花がだんだん早くなつたり、

梅雨が短かつたり、蝉の声を聞く時期が遅かつたり、今年もサンマを口にできなかつたり、秋を感じられなくなつた

り。

今までの当たり前が、次第に当たり前でなくなつてしまつてることのな

んと多いことでしょう。

今日も当たり前に目が覚めた。今日

も当たり前に食事が出来た。今日も当

たり前に健康で無事に過ごせた。混沌とした世界情勢に危機感を感じる今

だからこそ、こんな、何でもない平凡な日々に感謝し、いかに自分が幸せであるかを忘れないようしたいものです。

佐々木峯雲

